

No 67

3

)

(9月12日 N.B.C. ビデオホール)

瀬戸内寂聴氏

人間の幸福があまのた

幸福を確証するのは男と女の愛の確証
カコ

かうの場合が多い。仙教はそれを満愛
という。永遠でなく一時的なものである。

てあま 渴愛の反対は慈悲 無價の
愛つてはこゝろは 愛すは愛し

とほしい」とつづて居ない。見返りを求めず
心がない。それを拵つ事により幸福を感じ

いるのが理想で、仏門に入ると十二年
 仲々慈悲の実行はむずかしいがそれに近
 づく努力で生きていこう。

連城三喜彦氏

50才近い師が三の頃、才女美しくなつた
長間の不和の後、最近離婚して

生き生きと仕事をし、人と交わそう。
子供の世話が出来ず、下の子を私に引き
とる。可憐な義母に、一冊の幸福には

疑問あり 自立を叫んでる人多い今

昭 60.11.16 和

國立編譯館
館藏圖書

私の母の事を考えてゐる。家庭を支える良き方と
良き方ではないか。

100-5666-1-100

● 4才 仕事 家庭 子供を揃える 今の生活が

何れ足りないけれども元気がない。運動をすれば

三つ、財貨が、より出せるもの、家産といふ
したくない
取戻代に當り前のこと、渴愛は救にはつながらない

伝統的に男は浮気をするとクビなれてゐる
自己表現 自信につながる。女は手なれ
る。果かにあまりやすい。

53才主婦 自分三親(木下大妻は亡)を子けて
失た 看病療へ入 退院をくり返 とする 兄は

身体障害者 夫は病人だからの家をきくらゐ出て
しまひ止められながらた事がつらい 何の為に生きて

うと死にまゐらず 今宵元と共に暮らそう

出た。今からでも元氣な生はある。と云う気がして
来た。

昨年 八年前に息子が死んだ時、同じ人を愛した二人が二階に暮らそうとすめた、嫁は幼い出姑の

敷聴ゆり 40台のお嬢さんに
好まな人が出来たら笑顔

●家事をと一日を過ごすのはつまらない

● 主人はまうい

● 近所の監視の目が、また

● 女・の妻とも見えないが、まだ

●母は私を結婚させたばかりで、しかしまわりを見ると、結婚して生きている人はいない。

そこで例をとりやるば、そのウーミン達の意見は

○今迄出席した事がある会合で長崎の女性達バニな
に手を上げて発言したのは初めて 国連婦会十年
で会合が多く 人前じゃへるのになれて来てる

○内容とは幸福不幸を自分自身の判断の基準で求めるのではなく人に求めよう。

○ フォラムの議題「女の幸せ」という言葉には反感を感じ
る。男とちがう女の幸せ。家庭とか、子供とか言われたが、
自分の感じとれる。

女は又食を作らねばならぬ（女は生きているから）。出来ると信じてゐる。料理をするのは女の幸福と思つた（かゝる）大變な女はかう大切な仕事は男がする。此を差別とはなく甘のサトとスだと思つてゐる。

寂然の言葉に「夫が外へ出て来いよ」と言ふすと得意か
うと言ふ人がゐる。夫が理解があるから私は幸せ といふ

人もがさ
 元は
 うそだ
 今、家の中が
 オちゃんといふは

不自由を感じてはいないかう言うをみる。むしろちゃんと
いなかたう決まていふ言はない

○とても感じられる事は、30才位の女が、もんもんとくろくろく
心の中に、家の中に居る事で、モヤモヤがある

「僕を育てる事が出来た」と言う言葉は人に対して
説得力がある。感情に訴えやすい。しかしそれは濁

愛ではなか

子僕を押しおわら」といふ返のに女おこした
氣をはげなればいけない

自分の自然にほたばしる夢に引まづられて生ずると

考へつ生ずる 感情をヤブする事^が大切である

牧人のない女が、子供を夫のもとに残し去るのほ捨する
のではない、「子捨」といふ言葉は死語になつては

言葉をもつてない

「家を出る」といふ決をする」は、后し意味でない
男性社会で作られた言葉。華と女の側から受え之行か
ねばならない。「ウツメ」「アサギ」後家」その他

おとういし言葉は女になげつめらぬものが多し
男は立派とうい前提の上に立る言葉がある



ば"そんなミ達は今 今 今 今

○森川一二美々は

去る七月ニテ七月、八月三日。モスクワ、南

かれは才三回世界青年学生祭に参
加。エスクワへ行て来ましけ。

所以て、ロヒママーナガサキからの警告告一悲劇をくり返さぬた
 めに」という集念を拵う原爆はニセ、ニセにも影響を及ぼ
 すこと、ニセの友人が白血病で死んだことを訴え、原水爆禁
 止の署名を集めて来りた、祭典の期宙中に一ニッケ
 國以上、八万五千人の署名名が集まり来りた。人々が力を
 合せる時、必す核廃絶が出来る、という確信を持て帰
 る来りた。

。バインヤマンのみんなまで

八月末、野母崎へ泊旅行に行きました。泳ぐ事、大好き人間の丁さんは夏の終りの海をぐぐぐ、神遊、泳ぎに行き来しました。夕方、権現山頂へ三た度、海というすばらしい水平線に、立ち上る姿を見、車を登ります。その途中、せまいカーブの多いエリ坂で、対向車のやってくる。思わぬいきなり、同様の車に、乗ることは、若い男の人よ、ニギハジヒと、何かにすれ、ちがうところ、言えと、たんに、本人のドォン、おやりの、はる、うや、ん、達。

口もそうえて「サゲーノ」(「おれ違ひようゝえ狂々
照」)運転がむずかしい所では男の人にうまくやせもうう
のか当然、自分で努力しなご人にたよく生まようと
する事、ア、ア、思ひぬ所、自分の意識のひくまが
スリと出て来る。さあサゲをして、又しふり自分
の心を引おしめて行三。今、この時、かう……

○翌朝、私達のときまた暖かく、なにより一杯の宿。野母崎荘でもこの下土に花摘みをする仕事部屋を訪ねた。糸を紡ぎ、かすりの布をさき、絹糸を自分で採集した植物の葉や根で染め、はたにかけられる工房です。旅館の台所で包丁を握る時同く外に、創作者としての活動がなされている事はうしなひません。そこに感動。花が咲く寸前の梅の枝を煮出した汁を染められたセリフの糸の美しさに又感動。

工房の隅にあつた描きの墨を「だれがこゝとなすね
た時」「夫より」とエツやめに返る来は返事にも感動

ともたのし、旅行せられた。運命をふたにんさん、即苦勞を

エネルギーズ「女のイト三年」販
の大仕事をひかえた秋をのりまろ



女の) - 3年 \

ニの写真 は 全国各地から
送られて来ている「女のノート3年」
の申込書の一部です。
前回「女のノート」をかって下さった方
(長崎以外に住む)へ私達は
「又、セのノートが来ました。」とお
葉書を出しましたら、次々と申込
みがやって来たのです。又、14月
程前、ばうてムウマンの都倉が



つメンバー4人で長崎市内の各マスコミを訪問しました。N.H.K.テレビ、毎日、西日本、長崎の各新聞でとり上げられました。すると今度は又九州各地の新しい方々から注文が来るのであ。今私達は、毎週、日曜日、事務局に集めて放送の仕事にとり組んでいます。3年間、ノットをつけ、自分をみつめつづけようとする力強い仲間がふえて行く事に感謝しつつ、はげまされつつ、汗を流しています。もう2幹部位、出ましたヨ

ひざつきあわせ?
いろんはこと
出しあってみませんか
合宿ぞ!

- 科学技術が発達すると如き方はどう変わるのか
 - サのクリニックの条件
 - 「中絶の権利」と「水子伏養」のはずまで
 - 子どものいかにイメージを変える
 - 日本はオミ世界で何をしているか
 - どうなる、どうある母子保健政策
 - 生命再生産の自由とは？
- 科学による
は命操作といつた方が
いい(=)
- 人向に造るのも
もうそーぞー!?
- 世に国勢調査

産む産まないは
政治と科学が
決める

「進歩」や「開墾」の
私たちにどうして
一任何てよんだ?

科学による
生命操作といった方が
正しい

人間改造の夢も
もうそこ手近!?

女のやうにしては福祉
の手振きを利用され、
女の産みたい思いは
女たちを実験動物
におとしめる

のからだが合宿の御案内、という聲しそうなまじり
 女が、「お優生保護会改悪阻止連絡会談」から来まし
 た。この秋、三日間、東京都内で合宿、ということで残念で
 す。が、だれも行けませんが、でも日本の色々な場所、色々を大
 とミウして、お達が動いて、そのを知るの、とてもうれしいものとす
 る。この議題は、お達が毎日頃、話し合つて、その事は、かり
 ず、改めて考えたり、見ず、そのこと、その事を、気付く、助ウに
 なると思ひ、介介会のテーマを、紹介いたします。